

●
Donghak
Peasant
Revolution

●
東学農民革命

人、
再び
天に
なる

東学農民革命 記念財団



東学農民革命記念財団(以下‘記念財団’)は、2004年3月に制定された「東学農民革命参与者等の名誉回復に関する特別法」に依拠し、2010年2月文化体育観光部の特殊法人として発足しました。

記念財団は、東学農民革命参与者の愛国愛族精神を継承するための事業を遂行し、民族の大和合と統一、民主主義の発展に寄与するものです。その重要事業としては、記念館及び資料館の運営、記念及び追悼事業、研究調査事業、参与者等の名誉回復事業などがあります。

また記念財団は、黄土峴戦跡地に位置する東学農民革命記念館を全羅北道からの委託を受けて、常設展示及び毎年企画展の開催、各種教育及び体験プログラムを運営し、東学農民革命参与者の崇高な犠牲精神を称え、民族の精気を宣揚するために努力しています。

皆様の多くの関心と参加をお願いいたします。



東学農民革命とは、

1894年、封建制度を改革して日本の侵略から国権を守るために起きた、韓国最大規模の全民族的抗戦である。

●
鳥よ鳥よ青い鳥よ
緑豆の畠に降り立つな
緑豆の花がホロホロ散れば
青舗売りが泣いて行く



3月蜂起記録画

東学農民革命は、勢道政治のもとで貪官汚吏の悪政に苦しんでいた農民たちが、「人間らしく生きる世界」を作ろうと立ち上がり始まった反封建抗戦で、外勢の国権侵奪に立ち向かい、輔国安民(国を助け民衆を安らかにする)を遂げようとした反外勢民族抗戦である。

1894年、東学農民軍は古阜での農民蜂起を導火線として、茂長で布告文を公布した後北上して古阜官衙を再占領、白山大会を開いて部隊としての隊伍を整備し、井邑黄土岬と全羅南道長城の黄龍江で全羅監營軍とソウルから派遣された京軍(朝鮮政府軍)を次々に撃破し、破竹の勢いで第1次占領目標であった全羅道の首府である全州城を陥落させた。

朝鮮建国者の故郷であり、朝鮮政府の租税の大部分を担っていた全州城が陥落すると、朝鮮政府は清国に東学農民軍鎮圧のための軍隊派兵を要請し、これに対し日本も自国民保護などを名分として軍隊を派遣する。

国内外の情勢が緊迫してくると、朝鮮政府は招討使の洪啓薫を通じて東学農民軍との協議を推進し、清国と日本軍を朝鮮から撤兵させる名分のため、東学農民軍に対し全州城を明け渡すことを要請した。

東学農民軍は外国軍隊の撤兵のため、救国の決断



沙鉢通文

●
Donghak
Peasant
Revolution

●
東学農民革命

で弊政改革27か条を国王に報告すること、東学農民軍が解散するときの身辺保障を約束し、いわゆる全州和約を締結して全州城から退いた。

しかし、大陸侵略の足掛かりにしようとする朝鮮に進出した日本軍は、朝鮮政府の撤兵要求に応じるところか、甲午年(1894年)6月21日景福宮を武断占領し、親日内閣樹立、日清戦争の挑発など、立て続けに東アジア情勢を激動させた。これに東学農民軍は、日本軍を追い出そうと9月初に反日抗戦の旗を掲げて参礼で第2次蜂起を断行、ソウルに向かい進軍した。

そんな中、忠清南道の公州牛禁峙において日本軍との戦闘が起こったが、日本の近代的な新武器を克服できずに倒れ、結局東学農民革命は未完の革命として終結した。しかし万民平等と救国愛民精神の象徴である東学農民軍の崇高な精神は、抗日義兵、3・1運動、4・19革命などへと綿々と受け継がれ、韓国の民主主義を花開かせる土台となったのである。

「人が天になる」という次元の高い人本主義精神を実現しようとした東学農民革命は、中世の社会を終わらせて万民平等を追及した、韓国近代史の夜明けとなった民主主義の始原である。残念ながら半世紀もの間、全羅道地域に限られた反乱事件として歪曲されたまま歴史の裏舞台に影を潜めていたが、110年が過ぎてようやく「東学農民革命参与者等の名誉回復に関する特別法」が制定(2004年)され、歴史的意味の復権とともにその名誉が回復された。

東学農民革命 日誌

日時は陰暦です。()は陽暦。

4. 5.
東学創道

1860

1892

10. 21.
公州集会

11. 2.
参礼集会



崔濟愚の肖像画

東学創道 1860. 4. 5.

1860年慶州出身の水雲崔濟愚が人間平等思想と後天開闢思想をもとに東学を創始した。東学は儒道と仏道と仙道の長所を融合させた韓国的宗教である。



公州集会跡
(忠清南道公州市錦城洞)

公州集会 1892. 10. 21.(12. 9.)

1892年10月、東学教団の徐璋玉ら指導部は、忠清道の監營のある公州で東学の教祖崔濟愚の名誉回復を要求する集会を開いた。



参礼集会跡
(全羅北道完州郡参礼邑)

参礼集会 1892. 11. 2.(12. 20.)

1892年11月、崔時亨の命により東学教徒たちは全羅道参礼に集まり、教祖崔濟愚の名誉回復と東学布教の自由を要求する集会を開いた。



報恩集会跡(忠清北道報恩郡長安面)

報恩・院坪集会 1893. 3. 11.(4. 26.)

1893年3月、崔時亨の命により約2万人の東学教徒たちが忠清道報恩の飯内里に集まり、倭洋(日本と西洋列強を排除すること)の旗印を掲げて集会を開いた。

1893年3月、報恩集会が開かれていた頃、全羅道の金溝院坪でも全韓準をはじめとする全羅道の社会改革勢力が中心となり大規模集会が開かれた。



院坪集会跡(全羅北道金堤市金山面)

沙鉢通文蜂起計画の謀議 1893. 11.

全韓準ら20余人は、当時の古阜郡西部面竹山里デメ村の宋斗浩の家で、趙秉甲の苛政の対策を模索した。彼らは趙秉甲を殺し全州監營を陥落し、マルヘ行こうという革命的な謀議を決議し、その内容を含む沙鉢通文(主謀者が分からないよう沙鉢(どんぶり)をふせて描いた円を中心に参加者の名前を放射状に書いた文書)を作成して各村の執綱に送った。



東学革命謀議の塔
(全羅北道井邑市古阜面)

古阜農民蜂起 1894. 1. 10.(2. 14.)

1894年1月、全韓準率いる古阜の農民たちは、古阜郡守趙秉甲の収奪と虐政から脱しようとマルモク市場から蜂起して古阜官衙を占領し、武器庫を取り壊して武装し、収奪の象徴である万石状(灌漑用の堰)を破壊した。



古阜官衙跡
(全羅北道井邑市古阜面)

3. 11.
報恩・院坪集会

11.
沙鉢通文蜂起計画の謀議

1893

1894

1. 10.
古阜農民蜂起

4. 7.
黄土峴戦闘

3. 20.
茂長起包

4. 23.
黄龍戦闘

3. 26.頃
白山大会

4. 27.
全州城占領

5. 8.頃
全州和約締結



茂長東学農民革命起包の地
(全羅北道高敞郡孔音面)

茂長起包 1894. 3. 20.(4. 25.)

1894年3月全捧準は全羅道茂長において孫華仲の助けを受け約4千人が集まる中布告文を宣布した。



東学革命白山倡義の碑
(全羅北道扶安郡白山面)

白山大会 1894. 3. 26.頃(5. 1.)

1894年3月各地で蜂起した東学農民軍は白山に集まり全捧準を総大将、金開南、孫華仲を総管領として指揮体系と組織を構成し、檄文と4大名義、12か条の紀律を発表することで東学農民軍としての組織と体系を整えた。



甲午東学革命記念塔
(全羅北道井邑市徳川面)

黄土峴戦闘 1894. 4. 7.(5. 11.)

1894年4月全捧準率いる東学農民軍は黄土峴において全羅監営軍と戦い圧勝した。



東学農民軍勝戦記念塔
(全羅南道長城郡黄龍面)

黄龍戦闘 1894. 4. 23.(5. 27.)

1894年4月東学農民軍は長城黄龍において隊官李学承率いる朝鮮政府軍の京軍と戦い勝利した。



東学農民軍全州入城の碑
(全羅北道全州市完山区完山洞)

全州城占領 1894. 4. 27.(5. 31.)

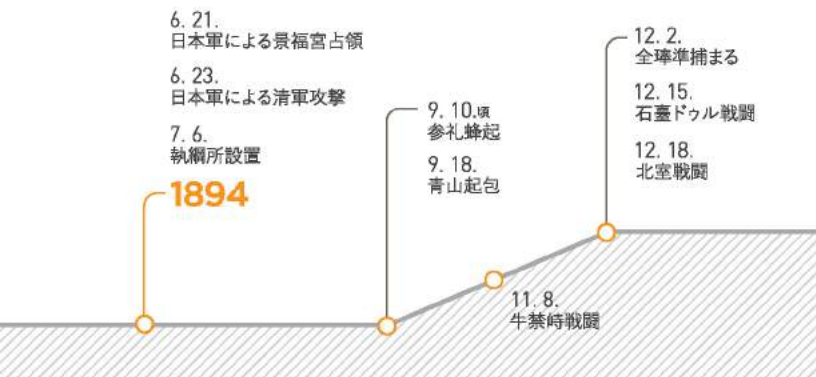
1894年4月全州城攻撃に出た東学農民軍は西門、北門、南門を攻撃しついに朝鮮王朝の発祥地であり全羅道の首府である全州城を掌握した。



全州豊南門
(全羅北道全州市完山区殿洞)

全州和約締結 1894. 5. 8.頃(6. 11.)

1894年5月東学農民軍は全州城から撤収し、洪啓薫は東学農民軍の身辺保障と弊政改革案を国王に進言することを条件に、東学農民軍の総大将全捧準と招討使の洪啓薫との間で妥協案が取り交わされた。これを「全州和約」という。



景福宮の正門である光化門
(ソウル特別市鐘路区)

日本軍による景福宮占領 1894. 6. 21.(7.23.)

1894年6月、朝鮮政府は東学農民軍が全州城から撤退し内政が安定したので日本に対し撤兵を要求したが日本軍は景福宮を占領し朝鮮政府を掌握した。



日清戦争が勃発した豊島沖
(京畿道安山市檀園区豊島洞)

日本軍による清軍攻撃 1894. 6. 23.(7.25.)

朝鮮政府を掌握した日本は、清国との戦争のための工作を展開し、結局6月23日牙山湾前の豊島に駐屯していた清軍を攻撃し、日清戦争(7月1日宣戦布告)を引き起こした。



院坪執綱所
(全羅北道金堤市金山面)

執綱所設置 1894. 7. 6.(8. 6.)

1894年7月、東学農民軍総大将の全瑛準と全羅監司金鶴鎮は、「官民相和」の原則に従い朝鮮政府と東学農民軍が協力して治安秩序を正すこととし、全羅道内53か所の郡県に執綱所(自治機関)を設置・運営することに合意した。



参礼蜂起歴史広場
(全羅北道完州郡参礼邑)

参礼蜂起 1894. 9. 10.頃(10.8.)

1894年9月、日本軍が政権を侵奪し内政干渉が深刻化すると、全瑛準は全羅道参礼に大都所(教団の組織)を設置して再蜂起に着手した。以降、軍器と軍糧米確保に注力した全瑛準は論山を出発し、孫秉熙が率いる東学農民軍と合流して南北接連合軍が構成された。



東学革命軍再起包記念碑
(忠清北道沃川郡青山面)

青山起包 1894. 9. 18.(10. 16.)

1894年9月東学の2世教祖崔時亨は、ともに起包(東学の組織である包を中心に蜂起すること)しようという全瑛準の要請を受け、忠清道青山から各包の接主を呼び集めて起包令を下した。



東学革命軍慰霊塔
(忠清南道公州市金鶴洞)

牛禁峙戦闘 1894. 11. 8.(12. 4.)

1894年11月、公州牛禁峙において数万の東学農民軍は、1/10にも満たない官軍と日本軍の連合軍を相手に熾烈な戦闘を繰り広げたが、結局武器の劣勢を克服できずに敗北した。

1. 24.
大苧山戦闘

3. 30.
全琫準ら絞首刑執行

1895

2010

2. 24.(西曆)
文化体育観光部の特殊法人
東学農民革命記念財団 発足

2004 3. 5.(西曆)

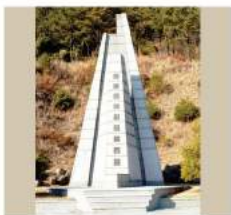
「東学農民革命参与者等の名誉
回復に関する特別法」公布



全琫準被逮地
(全羅北道淳昌郡双置面)

全琫準捕まる 1894. 12. 2.(12. 28.)

1894年12月、東学農民軍の最高指導者である全琫準が淳昌避老里において逮捕された。



長興東学農民革命記念塔
(全羅南道長興郡長興邑)

石臺ドゥル戦闘 1895. 12. 15.(1. 10.)

1894年12月、李邦彦率いる長興地域の東学農民軍数万名は、長興石臺ドゥルにおいて日本軍及び民保軍(民間の自衛体制)と熾烈な戦闘を繰り広げたが敗北した。



報恩東学農民革命記念公園
(忠清北道報恩郡報恩邑)

北室戦闘 1894. 12. 18.(1. 13.)

1894年12月、孫秉熙率いる北接農民軍が、忠清道報恩北室において戦闘を繰り広げたが敗北した。



大苧山戦闘地
(全羅北道完州郡雲州面)

大苧山戦闘 1895. 1. 24.(2. 18.)

1895年1月、約3か月間大苧山に拠っていた東学農民軍は、日本軍の奇襲を受けて少年1名を除く全員が戦死した。



日本領事館で裁判を受けるため、
法務衙門へ移送される全琫準の写真

全琫準ら絞首刑される 1895. 3. 30.(4. 24.)

1895年3月、全琫準、孫華仲、金徳明、崔景普ら主要指導者が絞首刑に処された。

東学農民革命記念館 所蔵遺物



沙鉢通文 | 42×30cm

1893年11月全奉準と東学農民軍の指導者たちが、古阜郡西部面竹山里の宋斗浩の家に集まって作成したもので、東学農民軍が残した代表的な遺物である。

(全羅北道遺物文化財第233号)



全羅道古阜民乱始初 | 174×19cm

全羅監營で作成された文書で、古阜農民蜂起の発生原因と展開過程などが記録されており、東学農民軍の組織体系や指導者の人的事項などが書かれている。



刑事裁判原本 | 20×28cm(複製品)

東学農民革命関連者に対する判決文が収録されており、東学農民革命当時の社会像を知ることのできる資料である。

(所蔵先:国家記録院)

尹柱殷号牌 | 1.5×9.5cm

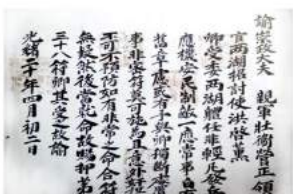
甲午年(1894年)当時、東学農民軍に参加した尹柱殷号牌である。全羅道康津と海南地域で日本軍と官軍を相手に戦闘を繰り広げるなど、東学農民軍として活動した尹柱殷、結局官軍に捕まり公開処刑された。号牌は朝鮮王朝時代、16歳以上の男性が身につけ現在の身分証明書のような概念で使用された。





兩湖電記 | 21×31.5cm

東学農民革命を鎮圧するために設置された「兩湖招討營」で、取り交わされた電報を日付別に整理した記録物である。この遺物には、東学農民革命に対する朝鮮政府の対策と6月11日(陽曆)に締結された「全州和約」について詳しく記録されている。(全羅北道有形文化財第234号)



洪啓薫論書 | 67×58cm

1894年4月高宗が、東学農民軍討伐の責任者である兩湖招討使洪啓薫へ下した命令書で、この遺物は現存する朝鮮の密符論書のうち最も後代に発給された論書の一つとして、東学農民革命当時の軍権が洪啓薫にあったことがわかる貴重な遺物である。



興宣大院君暎諭文 | 117×27cm

1894年9月興宣大院君が東学農民軍に対し、解散することを懐柔する内容が含まれた暎諭文である。文書には大院君が東学農民軍に、生業に復帰すれば処罰しないことを約束している。この遺物は、東学農民革命当時の興宣大院君と東学農民軍との関連性を理解する上で、非常に重要な研究資料である。(全羅北道有形文化財第235号)



チャンテ | 138×53cm

鶏を入れて育てる用途で作られたチャンテは、1894年4月東学農民軍がソウルから派遣された京軍を相手に勝利を収めた長城黄龍戦闘において、武器として活用された。東学農民軍は大きなチャンテを作り内部に藁をたくさん入れて、後ろに隠れて飛んでくる銃弾を避けたり火をつけて転がして、京軍と戦闘を繰り広げた。



黄宗模の槍 | 4×77cm

東学農民革命のとき、黄宗模が使用した槍である。彼は当時金堤地域の責任者として参与した。しかし牛禁峙戦闘後、日本軍に逮捕されて金堤で火刑に処された。この槍は黄宗模の後孫が所蔵していたものを、東学農民革命記念館に委託したものである。



勿侵帖 | 12×29cm

東学農民革命に加担しなかった事実を保証する文書で、一種の身元保証書のように使用された遺物である。

東学農民革命記録物 世界記録遺産登載推進

東学農民革命記録物の完全性と希少性

東学農民革命記録物は、1894～5年朝鮮半島において展開された東学農民革命に関する世界唯一の記録である。世界各地で農民抗戦は起きたが、一定の場所と時間に集中的に記録が残されているという点において、東学農民革命記録物は世界史的な価値がある。また、東学農民軍、政府、官僚、鎮圧軍、民間知識人など、様々な主体が各々の観点から認識した記録として、一つの事件に対する多様な観点で叙述された記録物という点で完全性と希少性がある。

東学農民革命記念財団の

東学農民革命記録物の世界記録遺産登載努力

- 世界記録遺産登載推進委員会発足(2015. 6. 2.)
- 世界記録遺産登載のための学術シンポジウム開催(2015. 6. 10.)
- 文化財庁に記録物ユネスコ世界記録遺産登載申請(2015. 8. 31.)

東学農民革命記録物の価値

東学農民革命は1894～5年朝鮮半島全域に拡散し、東学農民軍は積極的に運動に参加して新しい社会を作ろうとした。

東学農民革命の過程において東学農民軍は、除暴救民(暴政を除き百姓を救う)で人間尊重の社会を志向し、斥倭を打ち立て帝国主義日本の侵略に抵抗して自主を追求し、官民協治(官吏と百姓が相談して共に治める)の執綱所で直接民主主義を実行し、広済蒼生(広く民衆を救済する)と輔国安民(国を助け民衆を安らかにする)によって平等社会と民主社会を目指した。

したがって東学農民革命記録物は、人間尊重、自主、直接民主主義、平等、民主など人類の普遍的価値を追求した東学農民軍の精神が表現されたものとして、人類が守るべき貴重な記録遺産なのである。

世界記録遺産



ユネスコが世界的に価値のある記録物を保存し、保護するために選定した文化遺産を指す。世界文化に影響を与える記録物のうち、美的・社会的・文化的価値が高い資料をユネスコの諮問会議を通じて選定する。選定された資料は毀損を防止し、保存のための技術的支援を受けることとなる。ユネスコは1995年人類の文化を継承する重要な遺産を保存・利用するため、記録遺産の目録を作成し効果的な保存手段を模索するため、世界記録遺産事業を始めたのである。

value

東学農民革命記録物の世界遺産登載申請の主要目録 (全171件、約1万1千頁)

- 東学農民軍の任命状と回顧録など、東学農民軍の記録27件
- 東学農民軍鎮圧に加担した官僚と鎮圧軍の報告書など、朝鮮政府の記録115件
- 一般人として鎮圧に参加し記録した文集と日記など、民間鎮圧記録16件
- 個人が目撃したり口伝した内容を記録した個人見聞記録11件
- 東学農民革命と関連した日本側の記録2件

主要東学農民革命記録物の保有機関(全9か所)

- 東学農民革命記念財団、東学農民革命記念館(50件)
- 高麗大学校図書館(30件)
- 国家記録院(5件)
- 国立中央図書館(5件)
- 国史編纂委員会(6件)
- ソウル大学校奎章閣韓国学研究院(60件)
- 延世大学校学術情報院(3件)
- 天道教中央総部(10件)
- 韓国学中央研究院蔵書閣(2件)



東学農民革命記念財団は、今後東学農民革命記録物が2017年文化財庁の登載対象目録に含まれ、さらに2018年ユネスコの世界記録遺産に登載されるよう、最善の努力を尽くします。皆様の多くの関心と声援をお願いいたします。



東学農民革命主要記録物

東学農民軍記録物



殉教略歴 | 16×24cm

南原地域の東学農民革命関連の歴史的事実を、実証的に知ることで重要な資料である。柳泰洪という人物が陳述し崔炳鉉が記述して、南原宗理院で刊行された本である。



東学史 | 26×18cm

東学農民革命に直接参与した吳知泳が、東学の創始から1894年の東学農民革命の主要展開状況、そして1930年代の天道教の革新運動に至るまでの過程を記述した記録物である。(所蔵先:国史編纂委員会)

朝鮮政府記録物



全權準の供述 | 39×21cm

東学農民軍の指導者である全權準の審問内容を整理した記録物である。全權準は逮捕後、新設された裁判機関の法務衙門裁判場で全5回の審問を受けた。全權準の陳述には、当時の国内状況と東学農民革命の展開過程などが比較的细节に含まれている。(所蔵先:ソウル大学校奎章閣韓国学研究院)



啓草存案 | 29.5×20cm

議政府で1894年7月21日から同年11月20日の間に上げられた事項を、議政府の記録局が記録した本で、東学農民革命の展開過程と軌綱所関連資料が収録されている。(所蔵先:ソウル大学校奎章閣韓国学研究院)

民間鎮圧の記録物



閔坡遺稿 | 19×30cm

1894年当時、東学農民軍を鎮圧した全羅道羅州の都統將として活動した鄭錫珍の文集である。この文集は孫華仲、崔景善などが率いた羅州の東学農民軍と、羅州牧使閔種烈、當將李源佑などが指揮した守城軍との間に起きた羅州城戦闘を理解する上で、非常に貴重な記録物である。



蒼溪申公実記 | 28.7×19.7cm

慶尚道義興・軍威・漆谷地域で東学農民軍と対峙した儒生申錫燦が、日記体の形式でまとめた記録物である。東学農民革命当時、慶尚道地域の農民軍と民保軍の活動をうかがい知ることのできる貴重な資料である。

個人見聞記録物



甲午実記 | 30.5×22.5cm

1894年3月から12月までの東学農民革命の展開過程と日清戦争、甲午改革などの内容が、日にち別に詳しく整理されている。作成者は不明だが、東学農民軍の活動状況及び鎮圧対策と関連した各監督と巡撫の報告書などが含まれている。(所蔵先:ソウル大学校奎章閣韓国学研究院)



金若濟日記 | 27×19.5cm

成均館に在籍していた金若濟が作成した日記体の記録物で、全4巻のうち2巻と3巻に1894年当時の東学農民革命の状況とともに、中央政界の事情を詳しく記録している。(所蔵先:国史編纂委員会)

日本側記録物



駐韓日本公使館記録 | 20×25cm

1894年3月から1910年まで、駐韓日本公使館において日本の各級機関と取り交わした公文を集めた記録物である。1940年代朝鮮史編修会で撮影し現像したものを、現在国史編纂委員会で保管している。(所蔵先:国史編纂委員会)



日本公使館通論文 | 30.5×39.5cm

1894年8月日本公使館で作成された記録物で「日本が東学農民革命を看過することはできないので助けよう。朝鮮人の財物を食わず、両国の兵士は互いに友愛しなければならぬ」という内容などが書かれている。(所蔵先:天道教中央総部)

記念館教育体験プログラム



📖 プログラム内容

子ども: 子ども展示室の観覧、東学農民軍のキャラクターの工芸品作りなど
青少年: 常設展示室観覧、東学農民革命の理解(PTT)、
東学農民軍の旗作り、緑豆の種まきなど

📞 参加申請及びお問い合わせ

東学農民記念館教育担当(+82-63-536-1894)



東学農民革命記念館 子ども展示室



「1894年へ向かうタイムマシン」を展示テーマとして記念館常設展示室内にある子ども展示室は、子どもと家族単位の観覧客が自然な遊びと体験を通じて、平等と自主を夢見た東学農民革命をよりやさしく親しみをもって理解できる空間です。

1894年当時全国各地で輔国安民のため東学農民軍の一員として堂々と活動したまだ幼い少年将帥や幼い接主たちの活動を知ることができ、教科書では学べない韓国の先祖の人々の崇高な精神を感じることができます。



文化のある日
毎月最終水曜日

東学農民革命記念館でも文化のある日に各種文化公演プログラムを運営いたします。
多くのご参加をお待ちしております。



観覧案内

● **観覧時間** | 夏季(3月~10月)09:00~19:00 / 入場時間09:00~18:00
冬季(11月~2月)09:00~18:00 / 入場時間09:00~17:00
※毎週月曜日、1月1日は休館

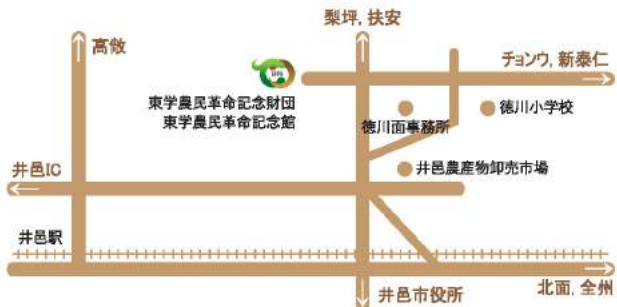
● **観覧料** | 無料

● **予約案内**

予約申請は観覧希望の1か月前から5日前まで、
予約中止は5日前まで可能です。
予約承認は予約人員の範囲内で申請の優先順位に従って行います。

● **申請対象** | 展示説明を希望する国内外の方(5人以上)

● **アクセスマップ**



56146全羅北道井邑市徳川面東学路742
東学農民革命記念財団 +82-63-538-2894
東学農民革命記念館 +82-63-536-1894
Fax +82-63-538-2893
홈페이지 www.1894.or.kr
E-mail 1894@1894.or.kr
ブログ <http://blog.naver.com/great1894>
フェイスブック <http://www.facebook.com/great1894>



東学農民革命記念財団
Donghak Peasant Revolution Foundation